

# わたしたちが住む山形の「今」と未来を伝えよう

( ) 組 番号 ( ) 名前 ( )

【一時間目】

新聞を通して、わたしたちが住む山形の「今」を知ろう。

一 図や表などがある新聞記事を見つけて読む。

( ) 新聞・ 年 月 日

## 県内交通事故 最少ペース



### 今年、平成以降 死者数も過去2番目

県内で今年発生した交通事故の件数、負傷者数が平成以降、最少ペースで推移している。いずれも昨年比で千件・人前後の減少となっている。死者数は29日現在30人で、過去2番目の少なさ。県警は、死亡事故が例年増加する10月以降の薄暮時間帯の対策が奏功したことに加え、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛で交通量が減ったことも影響したとみている。

県警交通企画課によると、発生件数、負傷者数は過去10年間、減少傾向で推移している。29日現在の今年の発生件数は昨年比967件減の3310件、負傷者数も1163人減の3953人で、一層の抑制が進んだ。今年は27日現在で、車同士の事故が昨年比856件減、重大事故につながりやすい高齢者被害は225件減となり、全体の数字を押し下げた。

死者数は9月末まで、過去2番目に少ない昨年(32人)より多く推移した。例年10、12月は日没の時間が早まり、歩行者被害の重大事故が増加する傾向にあるが、今年はこの期間の犠牲者が昨年末比3人減の8人(29日現在)だった。過去、死者数が最多だったのは1971(昭和46)年の204

### 県警が薄暮時対策 ◇ コロナで交通量減

人で、最少は2016年の28人。

県警は夕暮れから夜にかけての事故を防ごうと、さまざまな取り組みを展開。交通安全関係団体と連携した早めのライト点灯の呼び掛けや夜光反射材の配布、全域の主要交差点での一斉街頭指導、メール配信サービス「やまがた110ネットワーク」での連日の広報などが実を結んだ形だ。

新型コロナウイルス感染拡大も、事故減の一因とみられる。緊急事態宣言が出された4、5月は商業施設周辺や県境部で、1カ月間の交通量が昨年の6割程度にとどまった路線もあった。往来自粛要請が解除された6月以降は昨年並みに戻ってきたが、一時期は交通量にもコロナの影響が及んだ。

同課は1、3月の少雪や違反取り締まりの強化、各種団体による積極的な街頭活動も発生件数の抑制につながったと分析。「日の短い季節はまだ続く。ドライパーは前方を注視し、歩行者は夜光反射材を着用してほしい」と呼びかける。

(伊豆田拓)

2020年12月31日 山形新聞

※ 読み方や意味等が分からない言葉に印を付けてみよう。



わたしたちが住む山形の「今」と未来を伝えよう

( ) 組 番号 ( ) 名前 ( )

【二・三時間目】

記者や読者の立場になって、もう一度いいいに新聞記事を読んでみよう。

一 新聞記事にサイドラインを引く。

「例 赤色・・・事実（起きた内容等） 青色・・・原因（起きた理由等）」

↓  
記者が強く伝えたいこと／読者として強く伝わったこと

二 図や表から、新しく分かったことを見つける。

三 山形の未来について、自分なりに予想してみよう。



わたしたちが住む山形の「今」と未来を伝えよう

( ) 組 番号 ( ) 名前 ( )

【四・五時間目】

新聞記事の図や表を示しながら、山形の「今」と未来を伝える文章を書いてみよう。

